

習志野市谷津地区における高齢者の 日常利用施設の近接性と利用頻度の実態に関する研究 －高齢者が長く住み続けるためには－

日大生産工（院）
日本建築学会（特別研究員）
日大生産工

○岩片 優二
山岸 輝樹
広田 直行

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

我が国の高齢者の数は年々増え続けており、2007 年には超高齢化社会に突入した。高齢者が地域で少しでも長く自律した生活を行うためには、自力で施設まで行き、サービスを受けることが重要になる。そのため、居住地から日常利用施設までのアクセシビリティが高齢者の地域における居住性にとって重要な要素の1つであると考えられる。

前年度の調査では居住地から日常利用施設までの近接性による高齢者の住環境評価を行い、高齢者の日常生活における客観的な課題を見いだすことができた。

本年度は前年度の住環境評価に、実際の施設利用の現状を反映し、より精度の高いものとすることを目指す。そこで、谷津5丁目をケーススタディとし、高齢者に対する日常的に利用する施設までのアクセスに関するアンケート調査を行う。本稿では谷津5丁目に住む高齢者の日常的に利用している施設までの距離、利用頻度から高齢者の日常生活における施設の利用実態と外出に対する不安を感じたときの高齢者の日常施設利用への影響を把握することを目的とする。

1.2 調査概要

本稿では千葉県習志野市谷津5丁目を調査対象として選定し、65歳以上の自律した生活が可能な高齢者を対象にアンケート調査を行う。配布方法は谷津まちづくり協議会を通じて計100名に対して配布する。回収人数は計51名、回収率は51%である。（表1）

アンケートの内容は、①回答者の基本情報（住所、年齢、家族構成、外出不安の有無等）、②高齢者の必要最低限の日常生活を想定し選定^{*1}をしたスーパー・生鮮食品店、金融機関、病院・診療所^{*2}、薬局・

表1 調査の概要

調査日時	9/26-10/8
調査地域	千葉県習志野市谷津5丁目
調査対象	65歳以上の自律した生活を送っている高齢者
配布方法	谷津まちづくり協議会を通じて紹介
配布人数	100人
回収人数	51人
回収率	51.0%

薬店、公共施設の計5施設（以下、日常利用施設）における日常利用している施設名、利用頻度、移動手段、アクセスしやすさ③その他日常利用する施設^{*3}の施設名、頻度、④谷津5丁目に対する評価についてである。

以上のアンケート結果を集計し、回答した高齢者全体の施設利用の現状と、外出行動に対する不安の有無による施設利用への影響について分析を行う。

2. 谷津5丁目の地域特性

谷津地域は習志野市の南西部に位置している。京成谷津駅を境に北側が古くからの住宅地（5丁目）、南側が埋め立ての計画住宅地（3、4丁目）となっている。5丁目内には施設が少なく、4丁目に谷

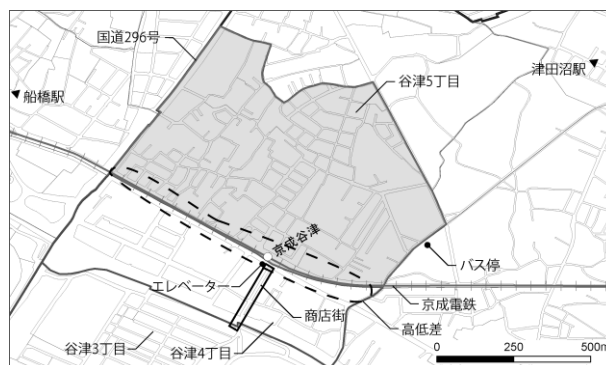


図1 谷津5丁目周辺の地図

In the Yatsu, Narashino-shi area,
the Research concerning the actual condition of the approachability of a use institution
everyday life, and the use frequency of a use institution everyday life.
Yuji IWAKATA, Teruki YAMAGISHI, Naoyuki HIROTA

津商店街がある。津田沼駅・船橋駅まで電車で10分程度とアクセスがよく、公共交通機関としては電車利用が多い。4丁目と5丁目の境界に高低差があり、4丁目の谷津商店街までのアクセスに少々難があったが、近年エレベーターが設置されアクセスしやすくなっている。谷津5丁目は前期高齢者が482名(市内2位)、後期高齢者が457名(市内3位)と習志野市の中でも高齢者の人数が多い地域である。5丁目内は坂道が多く、南に線路、西には国道もあるため、身体が衰えるにつれ、日常生活に何らかの変化が生じるのではないかと考えられる地域である。

3. 谷津5丁目における高齢者の日常施設利用状況

3.1 日常的に利用する施設の頻度

回答者の属性を表2に示す。各施設の利用頻度のグラフ(図2)より、月1回以上の利用が25人以上の施設は、スーパー・生鮮食品店、病院・診療所、金融機関、薬局・薬店、公共施設、美容、コンビニエンスストア、食堂である。それらのうち、週1回以上利用する人の割合が30%以上の施設は、スーパー・生鮮食品店、公共施設、コンビニエンスストア、食堂である。「食」に関する施設は利用の頻度が高い傾向にある。美容は月1回以上の利用は32人と比較的多いものの、週1回以上の利用はない。

3.2 交通手段、距離による施設利用の違い

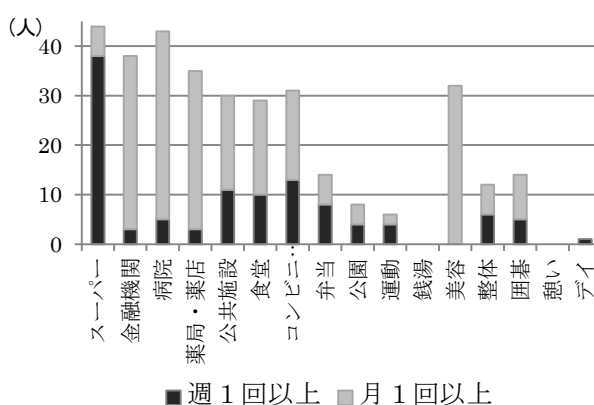
日常利用施設のアクセス評価のグラフ(図3)より、薬局・薬店、公共施設で「行きにくい」、「やや行きにくい」と答えている人の割合が3.4%と他の施設に比べ極端に少なくなっている。

徒歩・自転車で行く最も遠い施設までの距離のグラフ(図4)より、全体的に0～0.6kmの施設を利用する割合が高い。スーパー・生鮮食品店、金融機関、病院・診療所は0.8km以降の施設利用がみられたのに対し、薬局・薬店、公共施設は0.8km以降の施設の利用が全くみられない。

日常利用施設の移動手段(図5)より、スーパー・生鮮食品、金融機関、病院・診療所は車、電車・バスの利用が4人以上いるのに対し、薬局・薬店、公共施設は車、電車・バスの利用がほとんどみられない。薬局・薬店、公共施設は、施設までの距離や交通手段によって利用の有無に違いが生じていることがわかる。

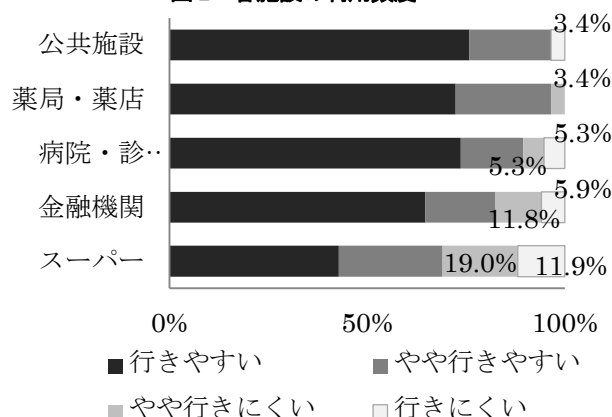
表2 回答者の属性

個人属性				個人属性			
性別	男性	人数	割合	仕事	している	人数	割合
	女性	35	68.6%		していない	41	80.4%
年齢	70～74歳	21	0.0%	住居形式	戸建て	43	84.3%
	75～79歳	15	29.4%		アパート	2	3.9%
	80歳以上	15	29.4%		マンション	6	11.8%
外出に対する不安	ない	36	70.6%	同居人	独居	11	21.6%
	長距離だと不安	12	23.5%		夫婦	22	43.1%
	短距離でも不安	2			その他	18	35.3%
	不明	1	3.9%	ずる人	おもに本人	28	54.9%
運転の	する	14	27.5%		おもに家族	11	21.6%
	しない	37	72.5%		おもに本人と家族	12	23.5%



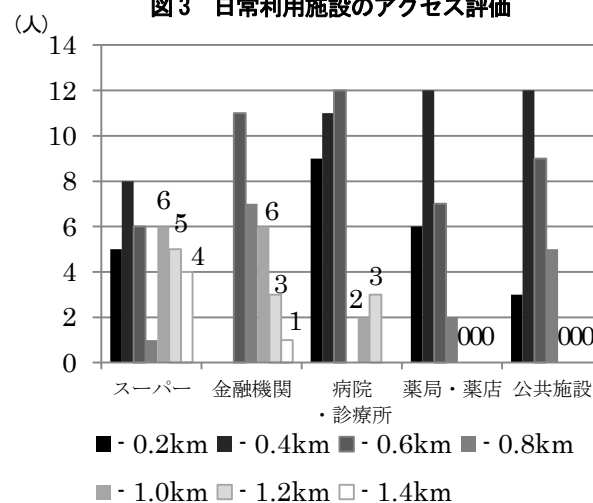
■ 週1回以上 ■ 月1回以上

図2 各施設の利用頻度



■ 行きやすい ■ やや行きやすい ■ やや行きにくい □ 行きにくい

図3 日常利用施設のアクセス評価



■ - 0.2km ■ - 0.4km ■ - 0.6km ■ - 0.8km ■ - 1.0km ■ - 1.2km □ - 1.4km

図4 徒歩・自転車での最遠施設までの距離

4. 外出不安の有無と高齢者の日常施設利用状況

4.1 距離と頻度による比較

外出不安別の利用頻度のグラフ(図6)より、「ほとんど利用しない」の割合がスーパー・生鮮食品店、病院・診療所以外のすべての施設で20%以上となっている。

そこで、外出不安別の徒歩・自転車で行く最も遠い施設までの距離の割合のグラフ(図7)をみると、外出不安がある人は外出不安がない人に比べ、1.2km以降の施設の利用がなくなり、0～0.4kmの施設の利用の割合が大きくなる。

以上から外出行動に不安を感じている高齢者は広範囲の行動をしなくなり、日常的に利用する施設の数も少なくなるといえる。

4.2 距離、施設種類、利用施設数による比較

4.1の分析によりわかったことを日常利用施設の利用状況を地図上にマッピングしたもの(図8-11)を用いて確認する。○は高齢者の居住している街区、■は各日常利用施設の位置、S○、G○、B○、Y○、K○は各日常利用施設の位置を示す。日常利用施設の施設名の一覧を表3に示す。また、線の長さ、太さはそれぞれ施設までの直線距離、利用頻度を示す。

4.2.1 外出不安のない高齢者の日常施設利用状況

外出不安を感じていない高齢者は施設の利用範囲が広く、多種多様な施設を利用している傾向にある(図8)。しかし、若干距離がある施設や、高低差、線路等の物理的バリアがある施設はこのような高齢者でも「行きにくい」、「やや行きにくい」と答えている人があらわれる。独居の高齢者や普段家族が買い物に行く高齢者の場合、津田沼駅周辺までの広域な施設利用が少なくなる傾向にある(図9)

4.2.2 外出不安のある高齢者の日常施設利用状況

外出行動に不安を感じている高齢者は外出に不安を感じていない高齢者に比べ、利用する施設の数が少ない傾向にある。利用する施設は重要度の高い施設のみの利用となる。図10の高齢者の場合、スーパー・生鮮食品店、金融機関、病院の利用のみであるが、利用している施設までの距離は最大で1.1kmと比較的長い。さらに、施設の数が少なく、施設までの距離が短い高齢者もみられる(図11)。また、男性は女性よりも日常利用している施設の数は少なく、1,2施設のみの利用という高齢者も

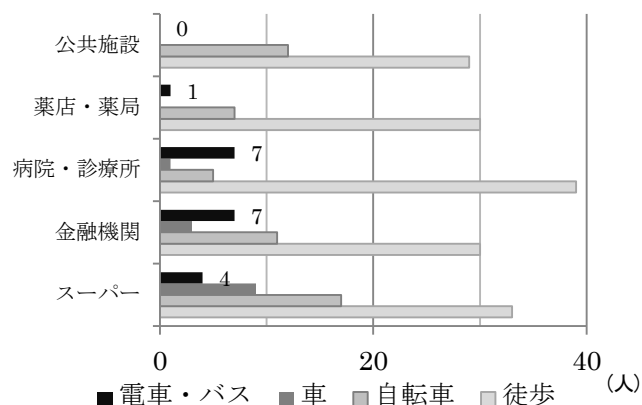


図5 日常利用施設の移動手段

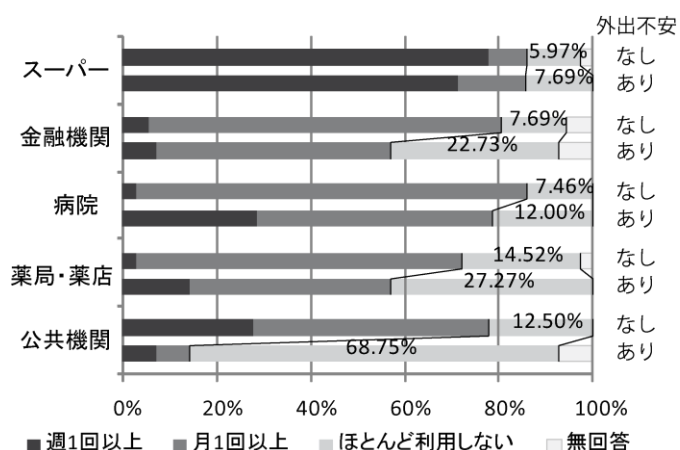


図6 外出不安別利用頻度

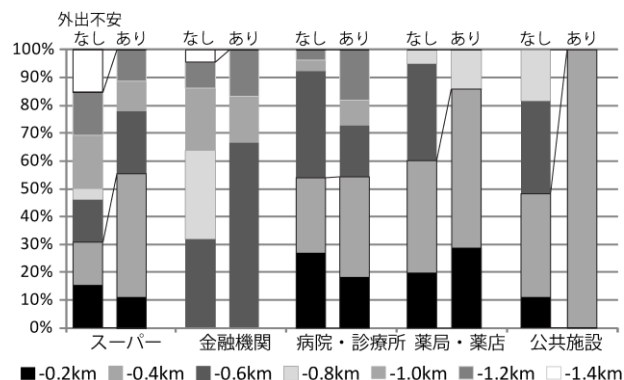


図7 外出不安別の徒歩・自転車での最遠施設までの距離

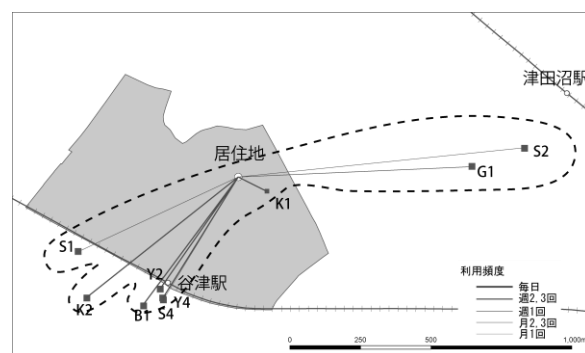


図8 外出不安を感じていない高齢者 例1

みられる。「家族が私の外出に不安を感じ、あまり遠くまで行かせてもらえない」というような声もある。

5. まとめ

本研究から谷津5丁目に住む高齢者の日常生活における施設の利用実態と外出に対する不安を感じたときの日常施設利用への影響について以下のことがいえる。

- ・谷津5丁目の高齢者にとって日常的に利用する施設はスーパー、金融機関、病院、薬局・薬店、公共施設、コンビニエンスストア、弁当である。中でも特に重要度の高い施設はスーパー、病院・診療所、金融機関である。
- ・薬局・薬店、公共施設は移動手段、施設までの距離によって利用に影響が生じている。
- ・外出行動に不安を感じている高齢者は広範囲の行動をしなくなり、日常的に利用する施設の数も減少傾向を示す。
- ・外出に不安を感じていない高齢者は利用する施設の数が多く、施設までの距離も長い傾向にある。ただし、普段家族が買物に行く高齢者や独居の高齢者は、広域の施設利用が減少する傾向にある。
- ・外出に不安を感じている高齢者は、徒歩圏では利用する施設が必要最低限の施設のみの利用となる傾向にある。さらに利用している施設までの距離が短い高齢者もみられる。

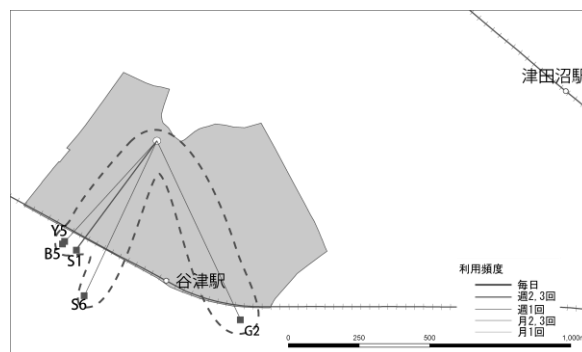


図9 外出不安を感じていない高齢者 例2

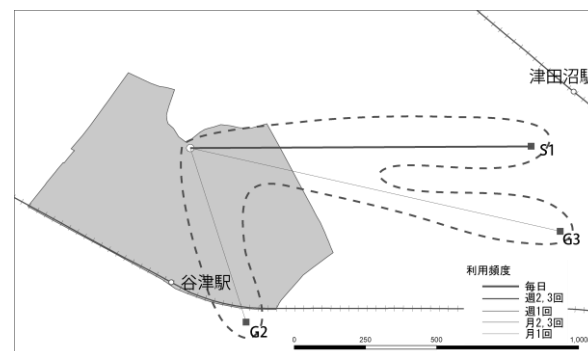


図10 外出不安を感じている高齢者 例1

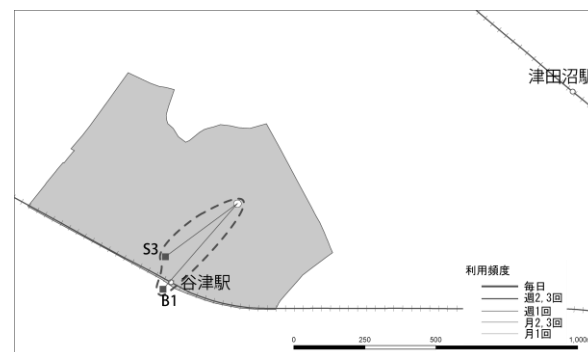


図11 外出不安を感じている高齢者 例2

表3 日常利用施設一覧

スーパー	S1	ヨークマート	病院	B11	谷津整形外科内科
	S2	モリシア		B12	谷津パーク診療所
	S3	二葉屋(肉屋)			津田沼駅・船橋駅周辺
	S4	魚定(魚屋)	金融機関	G1	京葉銀行津田沼支店
	S5	ハローマザーズ(肉屋)		G2	習志野谷津郵便局
	S6	ヤツシゲ(八百屋)		G3	習志野郵便局
病院		津田沼駅・船橋駅周辺		G4	津田沼南口郵便局
	B1	京葉銀行津田沼支店			津田沼駅・船橋駅周辺
	B2	習志野谷津郵便局	薬局・薬店	Y1	北谷津薬局
	B3	習志野郵便局		Y2	くすりの福太郎
	B4	津田沼南口郵便局		Y3	日本調剤谷津薬局
	B5	谷津保険病院		Y4	桃太郎薬局
	B6	東京湾岸リハビリステーション		Y5	ローズ薬局
	B7	津田沼中央病院		Y6	コイケ薬局
	B8	蒔田内科医院	公共施設		津田沼駅・船橋駅周辺
	B9	高橋クリニック		K1	谷津コミュニティセンター
	B10	谷津ロイヤルクリニック		K2	谷津公民館

【謝辞】

最後になりましたが、アンケート調査にご協力いただいた谷津まちづくり協議会、谷津5丁目の高齢者の方々に対して厚くお礼を申し上げます。

【注】

*1 参考文献 2)より

*2 病院は高齢者診療率の高い内科・整形学科を取り扱う病院を対象。

*3 谷津5丁目にあり、高齢者の利用がみこまれる施設を選定。

【参考文献】

- 1) 鈴木雅之、ライフエリアのミクロ実態に関する記述モデルの検討、日本建築学会計画系論文集、2003年3月
- 2) 谷川時進、高齢者利用施設の近接性からみる住環境評価と改善方法、日本大学生産工学部 43 回学術講演会梗概集、2010年12月
- 3) 岩片優二、ニュータウンにおける日常利用施設への近接性からみた高齢者住環境評価に関する研究、日本建築学会大会梗概集、2011年9月